

愛友会四国連合会報

第 10 号

75. 4



目次

電友会のみなさまへ……………	四国電気通信局長……………二
二〇万に達した高知県の電話……………	高知電気通信部長……………二
最近の公社の動き……………	四国電気通信局……………三
長寿漫筆(四)……………	文書広報課……………三
長寿漫筆(五)……………	猪谷嘉夫……………四
長寿のための「株式投資」(二)……………	板東秀一……………四
電友会四国連合会理事会開催……………	……………四
五〇年度年金増額の推定……………	……………四
全国の電電公社宿泊施設が利用できる……………	……………五
表紙のことば……………	荘野孝(丹秀)……………五
特集 桜と私……………	……………六
眉山の桜……………	長尾義夫……………六
花の半日コース……………	栗田信雄……………六
桜の並木……………	高木峰一……………六
初年兵……………	藤江理作……………六
花よりだんご……………	原重雄……………六
心の中のネガ……………	下元三男……………六
開局記念の桜……………	中島勇……………六
夜桜……………	細川幸子……………六
雪洞を灯して……………	太田集……………六
花篝……………	横山蔵峰……………六
心残りの桜……………	吉村まさき……………六
私のサクラ感……………	齊藤五郎……………六
浄貞寺の桜……………	中村団二郎……………六
吉野の桜……………	山地秀雄……………六
桜に寄せて……………	玉川都夢……………六
落花……………	有井一颯……………六
わが家の桜……………	白石フジエ……………六
感動の記憶……………	沢千代吉……………六
我が家のさくらんぼ……………	岩原文男……………六
会社の人事異動……………	……………一一
俳句、短歌、訃報……………	……………一二

電友会のみなさまへ

四国電気通信局長

原 田 阿久利



この一月通信局長を命ぜられた原田でございます。私は四二年から二年間当通信局の施設部長として勤務さ

せて戴いたことがあります。そのときは電電四国の応援団長もやらせて戴きました。はからずもまた懐しい四国に勤務することになり、松山空港におりましたら泉大先輩を始め多数の先輩のみな様が暖かく迎えて下さいました。お元氣な懐しいお顔を拝見して、その途端に七年のギャップがふきとんだ思いでした。四国の暖かい人情と美しい自然は、少しもかわっておりません。施設部長時代のように、またみな様のお世話を戴いてのびのびと愉快に公私共すござせて戴けることをよろこんでおります。

しかし四国はこの七年間に大きく飛躍致しました。「四国は一つ」の合言葉のもとに計画された早明浦ダムも見事に完成し香川県への分水など永年の夢が実現されていることは嬉しいことです。公社の事業もまた大きく発展しました。私が施設部長時代は電話の年間販売が三万から四万位で、四国にもっと電話をと叫んでいたことを思い出します。最近

十二万から十三万と増加しております。そして創業以来の夢であった積滞解消も、もう目の前にきております。これも一偏に公社事業一筋に、永年ご努力ご苦労された先輩のみな様方のおかげと深く感謝致しております。

ご存知のように今日公社をめぐる環境は非常にきびしいものがあります。住宅用電話の増加による収入構造の大きな変化や不況などの影響をうけて収入が伸び悩む一方、物価高や人件費の増大など支出が増加して、四九年度は公社発足以来始めて約二〇〇〇億円の赤字決算となる見込みであります。このため補正予算により多額の借入れを行うなど、当面の切り抜け策が講ぜられたところでもあります。また懸念の料金改定問題が見送られたこともあって、来年度も引き続き創業以来の大巾な赤字が生ずることは必至であり、建設勘定予算も前年度の五割増にとどまっております。このような厳しい情勢下においても、五二年度末には全国的規模で、積滞を解消するという基本方針の実現に、全力を傾けていきたいと思っております。また一層お客によるこぼれる暖かいサービスの提供に、つとめていきたいと思っております。

しかしながら、公社事業を円滑にすすめてゆくためには、地域社会の理解と協力が是非必要であります。私どももこのために、更にきめこまかい配慮をまいります。特に先輩のみな様方のお力添えを是非お願い致します。みな様方は公社事業をささえてこられた豊富なご経験をお持ちになっておられると共に、地域社会においても厚い信望をえておられる公社の最大の理解者でございます。今

後ともできる限りみな様にお会い致し、ご近況をお聞かせいただくとともに、公社の動向などをお話し申し上げ、ご高説を賜りたいと思っておりますので、この上ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

先輩のみな様が、ご健康でますます若々しくご活躍下さいますことと、電友会の益々のご発展をお祈りして、ごあいさつと致します。

二〇万に達した

高知県の電話

高知電気通信部長

関 根 敏 雄



二度、三度と大きな寒波に見舞われたこの冬もおわりを告げ、この会報がお手元に届く頃には桜の便りも聞かれる頃と存じますが、会員の皆様方にはますますご繁栄のこととお喜び申し上げます。

電友会の皆様が公社を去られましたあとも、それぞれの地域社会の中で、いろいろと活躍されている様子を耳にしたり、姿を拝見したりするたびに誠に心強く感ずる次第です。また、平素は公社事業のよき理解者として、種々ご協力いただいておりますことに対し、この誌上をかりて厚く御礼申し上げます。

すでに皆様ご存知のように電電公社は発足以来二十二年を経た今日、最大の危機を迎えております。昭和四十九年度は、二千億円を

上まわる赤字決算が予想されており、二十二年振りの電信電話の料金水準を改定する案は、昨年末政治的判断で凍結をみたため、昭和五十年度の予算案は、当初から二千四百八十九億円の赤字予算となっている状況であります。このように厳しい経営環境ではあります。私共としては電信電話が今や国民生活になくてはならないものとして、定着していることを十分認識し、より良いサービスの提供に努めるとともに、経営の改善に地道な努力を続け国民の信頼にこたえてゆく所存であります。

高知県の電信電話の近況をお知らせしますと、去る三月二十日に高知県の電話は二十万を数えるに至りました。高知県での電話サービスは、明治四十年、高知市において百五十三加入で開始し、以来戦災等の苦難を経て、六十七年あまりかかって、ここまで到達したものであり、今その道のりを振り返って、改めて先輩の業跡に感謝と敬意を表する次第であります。

二十万番目の電話は、高知市神田に来る五月開院予定の高知リハビリテーション厚生年金病院（事務所開きが三月二十日）に取付け開通式ならびに記念植樹を行いました。また午後からは、二十万開通に至る道を振り返る意味で、高知県電電公社退職者の会の代表者と、電報電話の今昔について座談会を行い、意義のある一日を送ることができました。

また、四十八年度末における電話普及率の番付によると高知市の普及率は、四国ではトップであり全国順位でも十四位という極めて高い所に位置しています。

プッシュホンのサービスも四十九年度は従来からの高知市、南国市、土佐市に加えて、中村市、宿毛市、土佐清水市、窪川町、佐川町で開始され、五十年度はさらにサービス可能地域を拡大する予定であります。

セルスマン等に好評のポケットベル・サービスも高知市周辺での開始に備えて準備を整えており、近日中にサービス開始の予定であるなど、量の拡大と共に質の充実にも努力しております。

永年の夢であった「申し込めばすぐつく電話」も、高知市では一部地域を除きほぼ実現の段階に達しており、県下のその他自動局でも五十年度には、架設期間が相当短縮される見込みであります。五十二年度未即時架設の大目標達成のためには、需要と設備の管理や、事務処理方法など新たな角度で見直し改善すべき事項が多々あり、これらに真剣に取り組んでいるところであります。

厳しい社会情勢の中ではありますが、私共は、先輩達も含め電電人の永年の夢の実現を目前に控え、最大の努力を傾注する所存でありますので、今後とも従来に増してご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご多幸を心からお祈りして筆をおきます。

最近の公社の動き

四国電気通信局文書広報課

一、五十年度公社予算について

公社は一月二十日に昭和五十年度の予算

案を発表しました。これにより、五十年度は、公社発足以来初めて「赤字予算」の編成となっております。

これは、公共料金の据置きという見地から電報電話料金改定が見送られたこと、そのほか人件費の上昇、物価の高騰などで支出が著しいこと、また住宅用電話の比率が六十パーセント近くになること等により収入が従来のように期待できないなどが主要因となっております。

まず事業収入は、最近の景気の動向と増収努力等を勘案して、二兆一二〇七億円、一方事業支出は、経費の効率的な使用をさらに強化しても、人件費の上昇、物価高騰などの支出増加で、二兆三六九六億円となりました。その結果、二四八九億円の大中赤字予算の編成となりました。

しかしながら、電話は国民生活にかかせない必需品となっており、ことから、公社は五十年度も加入電話増設に重点を置き、建設投資額一兆三〇七億円をもって三〇〇万加入の増設が計画されております。そのほか主な計画としてビル電話四八〇〇〇加入、ビジネスホン五〇万個、ホームテレホン一〇万セット、プッシュホン四五〇〇〇〇個、公衆電話七五〇〇〇〇個などの増設を行ないサービスの増進に努力することとしております。

二、通信局の組織整備について

通信局の営業部と運用部が再編成されました。本社では昭和四十八年一月に営業局、運用局を再編成し、営業局と業務管理局が設置されていますが、この設置が二年を経

過し、定着化しましたので、通信局でも、本社の組織に合わせて、営業部と運用部を再編成して一月二十一日から、営業部と業務管理部を設置しました。
 両部の取扱う業務の概略は次のとおりです。

○ 営業部

市場調査、専用業務を担当するとともに、従来運用部で扱って来た郵政・ポケットベルなどの委託業務、電話帳の編集発行業務を担当します。

○ 業務管理部

従来、営業部および運用部で分担してきた電報電話業務に関する通信部以下への事務指導を担当します。

長寿漫筆 (五)

高松 猪谷 嘉夫

薬 薬は薬であって必要なときには誠に重宝なものである。当今の人は何かといえば直ぐ薬にたより薬を無性に使用するから製薬会社は笑いが止まらない有様。それに日本では外国と異って、医師の処方箋がなくても、大概の薬を自由に買うことができるからでもある。然し薬も服用しなくてすめば、服用しない方がよい。私は怪我とか伝染病以外のときは、なるべく用いないことにしておる。大体人間の体は病気になるっても、自力で恢復す

る自復作用がある。自力でどうしても治らないときに、薬にたよるべきである。

薬には必ずと言ってよい位に副作用がある。そしてよく利く薬程副作用も大きいそうである。また薬品の成分のあるものは体内に残留して、薬を連用するに従い蓄積量が増加して、所謂薬中毒を起したり、又は薬に耐え得る抗体質になったり、耐生菌ができたなどして、同じ薬の連用はものによっては好しくないことがある。薬を用いるにも、なるべく副作用の少ないもの、又は免役性のないものがよいが、素人にはその判別が困難である。私は時偶下痢したときは先づ絶食する。薬をとるとすれば、炭の粉の様な以前△△チャーコールという薬があったものを服用する。これは活性炭素で早く言えば炭の粉で、炭素は毒素や悪臭を吸収する作用をもつておる。これなら免役性もなければ副作用もない。然し菌に基く下痢などには不向である。

薬と言えは薬、栄養と言えは栄養といわれ、ビタミンにしても、飲み過ぎると或る種のビタミンは他の或る種のビタミンを排出す作用があるとのことである。ビタミンも日常の食品からとった方がよく、亦ビタミンには色々な種類があって、ビタミン相互の作用については、未だ充分解明されていないものもあるとのこと。いづれにしても、必要以上に薬剤の服用はさけた方がよい。薬毒一如と言う通り、適量にとれば薬になるが度をこせば毒になる。鎮痛剤に用いるモルヒネも、致死量をこえれば殺人剤になる。「過ぎたるは及ばず」とは薬にもあてはまることである。
 (以下「老人ぼけ対策」は次号へ)

電友会四国連合会理事会開催

昨秋の第三回総会で改正された会則に基く最初の理事会を、二月二〇日四国電気通信局の会議室で開催し、会務運営につき左記の事項等を協議した。この会議の中で、新任の原田通信局長からごあいさつがあり、最近の電電公社の状況について、通信局文広課長からご講演があった。

- 1 連合会事務局要員について
- 2 五〇年度総会の開催地について
- 3 四九年度の収支状況について
- 4 本年の退職者に対する入会勧奨方法その他
- (1) 五〇年度年金改正の方向
- (2) 公社保養所の利用料金等の改正
- (3) 会則の改正

五〇年度年金増額の推定

昨年総理府から、提出されていた五〇年度恩給改善の概算要求も、年頭の予算内示では大きく崩れ、その復活運動に馬力をかけたこともあって、一月十一日に決定した予算案では、一部実施期のおくれるものもあったが、大体概算要求の線で認められた。その主なものは、

- 1 恩給の増額 二九、三〇(五〇年改定)八月改定)
- 2 公務員給与と恩給水準の格差是正 六、八%(五一年改定)一月改定)

両方を併せると三八、一〇%($1.293 \times 1.068 + 1.381$)になるが、2、の格差是正の分は、新聞記事等から推定すると、退職年度によって、次のような見当になる。

長寿のための 「株式投資」 (二)

徳島 板東 秀一

さて「長寿のための株式投資」という見出しでしたがなぜこれが長寿のためになるのかを述べてみましょう。

長寿にはまずこせこせしない精神的ゆとりと、身体的には健康が必要であり、そのうえときには神経系統への小さな刺激も必要なのです。何不自由なくすべて思いのままになる人生では、真の仕合せはないのです。「何か欲しい」「何かをしなければならぬ」「あれが気がかりだ」という、欲望と追求と若干の不安がなければ長生きはできません。

この条件をピッタリ満たすのが株式投資でしょう。資金は一五〇万から二五〇万で十分です。一万株単位で取引すれば、一か月に一六〜七円位動く株はいくらでもあり、OBの皆さんの退職時の月収位は毎月十分に確保できましょう。しかし生身の人間の行うことときには暴落して肝を冷やすこともありすが、これがよい刺激になるのです。タルンだ神経がシャキッとします。そして暴落があれば必ず暴騰があります。株価は必ずサイクルを描いて動いています。個々の銘柄にもそれぞれ個性をもっています。しかも数か月先を先見予測して株価が動きます。研究すればするほど神秘的だとも思われるのです。どんな株をいつ買ったらよいか、いつ売ればよいか、というような細かな戦術はこの紙

面でな述べ尽せません。それよりも各自で時間をかけて入念に研究することもまた長寿への入口となるでしょう。なんとすれば毎日の生活にある一つの目的を見出すことができるからです。この次にお目にかかったときに、どなたかが目を輝やかして、私に話しかけてこられるのを楽しみにしています。

この原稿を書いている今は十一月初旬、庭の木々も漸く色づきはじめてきました。私の念願の全国四十七都道府県の「県の木」集めも、残り十三県分となりました。毎日の木々の世話もまた楽しいもので、健康にも役立ちます。難物は沖繩の「リュウキウマツ」秋田の「秋田スギ」岩手の「南部アカマツ」京都の「北山スギ」三重の「神宮スギ」等その地へ行かなければ手に入らない木々です。然し近い内に全部揃へようと張り切っています。十月二十九日電徳島温古会の総会るとき、四国のOBの皆様にお目にかかりました。「君は現役でないのか！若いなあ！」とよく言われましたが長寿の薬がぼつぼつ私に効いてきたのかも知れませぬ。

さて、長寿の秘訣としての私の戦法。一つ試みられてはいかがでしょうか！。

表紙のことば

春 内海 莊野 孝(丹秀)

山道を散歩していると、山桜が咲いている。眺めていると、野鳥が飛んで来てたわむれることに、花びらをほろほろと散らせている。人の心が自然美にとけこんでいく幸なひととき。それが詩であり、画であり、芸術の心ではないでしょうか。

全国の電電公社宿泊施設が利用できる

電友会会員は、電電公社の保養所を、電電公社職員に準じて、利用できることになっていましたが、さらに全国の電信電話会館、その他の公社宿泊施設も、公社職員と同じ条件で、利用できることになりました。

◎ 電電公社の保養所や、宿泊施設の一覧表は、さきにお配りした会員名簿(四九年三月末)の付録に掲載していますが、くわしい案内書「保養所のしおり」が、今回電気通信副利協会から発行されますので、本会で購入のうえ、各県の会の事務所に一冊ずつ備えることにしました。どうぞご利用ください。なお個人でご入用の向は、はがきで本連合会事務所へお申越ください。定価は二八〇円です。

◎ 保養所の利用料金と休業日がつぎのように改定されました。

一 利用料金 1 宿泊料 一、〇〇〇円

2 食事料 実費(朝夕二食 七〇〇円程度)

3 サービス料 五〜一〇%

二 休業日

各保養ごとに、設定されています。各公社機関又は退職者の会へ、お問合せください。

退 年	職 度	公務員 給正 給50 恩給年	与格 水年 差分
昭和			%
	34		6.80
	35		4.25
	36		3.92
	37		3.50
	38		3.36
	39		2.68
	40		2.77
	41		2.40
	42		1.81
	43		1.36
	44		0.86

注 昭和三四年度前の退職者は六、八%。四五年度以降の退職者には、この是正はないから四五年度〜四八年度のかたは、二九、三%のみとなる。

特 集
桜
と
私

眉山の桜

徳島 長尾義夫

神武さんの銅像前では、大きな技ぶりに花弁を重なり合ってぼたんのように大柄である。祇園さんから五明文庫へ花のトンネルがある。有名、無名のお茶屋が思いおもいに桜の技を取り込んで掛け茶屋を作り、幔幕を張り席を設けて客を呼んでいる。夜はちようちんに電しくして、昼をあざむくばかりと力んでいる。昼中はござ、むしろを敷いて花の下で箱弁当をひろげ、三味線、たいこで踊っている向きもある。

北参道に白糸亭があって、花の廊下に包まれ情緒てんめん大人の遊び場でもあった。石割檜の風致に滝の橋を渡れば、三重の塔が朱塗りのあでやかな姿を天空にそびえており、花がさを冠ったようである。八坂神社の石段は両側の桜並木にむせかえるばかりの花ざかりである。

お不動さんの桜、瀧の水はダムをなし、その花びらを浮かせて焼もち屋へ引き込んでいく。

瀧のお葉師さんの庭に、二メートルもあるうか大きな銅の水盤から、瀧の水がいつもあふれ出ていて、とてもまかった。

瀬戸久と和田という焼もち屋があって、宿明けの昼寝の宿にしたりして、一皿十銭の焼もちをよく喰べた。また天井へ投げつけて興じたものであった。障子をあげればすぐ手のとどくように花見ができた。春日さんの境内には立派な桜があった。実に見事な花をつけていた。

局の窓からは手に取るように、眉山のさくらが眺められたもので、花見客の浮かれ歌い、さんざめく音声は夜勤の手を休めたものであった。

社（やしろ）や健物はみな戦災をうけて、焼失してしまったが、仲々元の姿にはかえらないものだ。

桜の花はいつ見ても美しい。

心残りの桜

高知 吉村 まさき

かれこれももう十年位まえ、偶々の出張の途次大阪に住む兄を訪ねた。

「今日は天気もいいし嵐山の桜が見ごろだ……」という兄のことばに誘はれて嵐山に遊んだ。

全く風一つない薄日の射す静かな日で全山の桜はまさに落花寸前、満開の一刹郊であった。

渡目橋の往き来、そして赤毛氈の茶店にひとときの桜のながめはこの一日の思い出の頂点であった。

点であった。

咲き満ちてこぼる、花もなかりけり 虚子
けんらんと咲きほこる満山の桜を目の前にしながらなぜかこの桜が風に散るさまを思い浮べた。

一陣の風が私の体を吹きねけていくとき、遠く嵐山に霞のようにむらがり咲く樹々の桜から雲のように花吹雪がたちあがり山腹を這い流れ動いていく。

それを見たかった。数日のあとにそのすばらしい景観が見られるだろうが、私にはその機会はないと思うと心残りであった。

花の半日コース

松山 栗田 信雄

松山でサクラといえは城山と道後公園ですが、すこし足を延ばしてつぎのコースはいかがですか。

常信寺、祝谷にあります。松平家第一代の藩主定行が鬼門の護りとして建立した寺です。境内には定行と第一伯の墓と十四代定昭の髪塔があります。ものの本によりますと「境内に数百株の吉野ザクラを移植し、花時の美観は県下第一の名所となった」とあります。いまでも多くの老木がまともって、花をつけているのはみごとなものですよ。

常信寺を後にし伊台へ向います。ゆるやかな山道を登り、やがて瀬戸風峠を越すと伊台です。これからさきは下り道です。このあたりは大昔湯が出る場所から湯台といわれていたのが、なまって伊台となったといわれています。すこし行くと路傍に一本の八重ザクラが咲いています。いわゆる万葉の花も美し

いですが、ただ一本こぼれるようなこの花にも心を惹かれます。

間もなく下伊台桜組の大楽山東光院西法寺に着きます。延暦十一年桓武天皇の御宇に創建されたもので本尊は薬師如来の坐像です。

ここに有名な薄墨サクラがあります。このサクラのいわれについてはいろいろあります。藤原氏の公達を遺言によりだびにしたところ、灰がサクラにかかり薄墨になったとか、また天武天皇の皇后が病気になる、この薬師に祈ったところなおったので、感謝のしるしに薄墨の論旨をたまわったのが、その名になったともいわれ、あるいは嵯峨天皇の薄墨の論旨を保護しているためだともされています。門前に「薄墨の論旨かき桜かな」の極堂の句碑があります。

ここで一休みしてから県道松山三津港線を西へ下り汐見温泉に出ます。このサクラは若木ではつらつとした美しさをしています。温泉でひと浴びしてから帰路につきましよう。国道一九六号線は車が多く、歩くのには不適合ですから、これをさけ宮の谷から山きわをとり、姫原、山越、御幸町へ出ましよう。以上全コースで十二キロ弱で、半日のハイキングに適当なものです。

私のサクラ感

徳島 齊藤 五郎

サクラといえば私はこれほど多くの人々に親まれていた花はないと思っている。もっとも開花が陽春の気節でもあり、花もピンクで色香あり野性味もあることから、ここらあたり親まれる素因があるのではなからうか。

古くから歌によまれ、ことわざになり、演劇にもよく使はれ、もの名稱等に利用されているのを見てよくわかる。又国の花というところもあってか、その時、その頃によって花の個性をうまく利用されている。たとえば戦前は踊や歌謡曲の花であり、戦中は武士道の花として強調され、戦後はレジャー、観光等の対照にされている。このようにサクラは、古き時代から現代まで、世の中の多くの人々に愛され親賞され親まれてきている。私もサクラにあやかるわけではないが、満開の花びら、まいちる花の下で、美人の酌で盃かたむけ、サクラ音頭でもどなりつ、ホロヨイ人生を味うことを、たのしみの一つにしている。今日此の頃でもある。ともあれサクラは美しい色と香りを、過去より現在え、又未来えと人々に愛され親まれつづけていくことであろう。

桜の並木

丸亀 高木 峰一

思い出に強く残っている桜は太田川畔の大芝公園の桜である。遠く昭和二年にさかのぼるが、私はこの年小学校を卒業すると大きな希望を胸に広島通信講習所に入学したのであった。

当時広島県安佐郡三篠町に講習所があり、その寄宿会の近くの太田川の西岸に大芝公園があって、私達は一年中朝な夕なにこの桜の木の下を散歩して勉強の疲れをいやしたものだ。だから私の思い出は桜の花ではなくて桜の木であり葉である。そしてこの桜は「トント」とともに一生忘れることのできない思い出として残っていくことであろう。

浄貞寺の桜

安芸 中村 団二郎

「浄貞寺の桜を市民に呼びかけて花の名所にしたい」と、住職の良快さんから相談を受けたのは、退職して間もない十六、七年前の事になる。数十本の染井桜の見事な花が、毎年見捨てられる、と惜しがる良快さんは、踊と歌の隠し芸で人気のある老人でもあった。

つい話に乗った私はその翌春、良快さんを相手に浄貞寺の花見の準備を手伝わされる仕儀となった。資金造りの寄付回りでウンザリしたが、どうやらぼんぼりの五十ばかりの調製に成功。折から咲き急ぐ桜を追いかけ、てんや、わんやの幾日かを重ねて段取りを進め、やっと開場の運びに漕ぎつけたことである。

山腹にちりばむぼんぼりの灯は、たちまち人目を引くところとなった。何しろ、史蹟で知られた浄貞寺だけに、埋れていた桜が世に出たことから、忽ち街のうわさに拡がり、やがて人波の押し寄せる花の名所の出現を見た。気を良くした良快さんは貸むしろ、さては方丈、庫裡の開放まで抜け目がなく、得意の程が窮われていたが、幾年か経ったある夜、ほろ酔い気嫌で寺に帰ると、事もあらうにひと騒ぎを残して、そっくり往生という次第。その後、寺を訪ねると尼僧が独り淋しく仏つとめをしていた。

浄貞寺の桜と私は行きずりの縁に終って随分久しい。何時の間に樹齢が尽きたのか桜の古木は枯れて境内は当時の面影を変えている。さて、桜の花のように散れば、と願う私もそろそろ年である。

初 年 兵

大洲 藤 江 理 作

「万葉の桜が襟の色」今更やばつたい歩兵の本領を唱えるつもりはないが「桜と私」と云えば忘れたい初年兵の昔のことである。

松山歩兵二十二連隊の跡（現在堀の内公園）に、当時の桜が現在も若干老木となつて残つていて想出尽きぬものがある。遠慮会釈のない古兵の鉄拳に鍛えられたのは昭和九年、ぐつと歯を喰いしばつて耐えぬいた初年兵教育の厳しさ、現在も残る桜の古木は、私共の汗と涙をおぼえていてくれるだろうか？あれから四十年、当時の精鋭連隊は上海に、北支に、比島に、遂には沖繩に壊滅した。連隊とともに散華した戦友の顔々々、酒保の庭の万開の桜を背に撮つた写真の私も若い顔であつた。あの頃の桜は花も豊かで、歩兵本領の歌のごとく隊内至るところ花々の連隊であつたが、花の美しさ豊かさに酔うどころでない当時初年兵の私は、桜の木の下のベンチで小さくなつて、酒保の鯛パンをムシャブリ喰つたものである。

吉野の桜

多度津 山 地 秀 雄

桜と云へば花見の宴を思い出すように誰しも思い出が数々あることと思ひます。私も大阪中話時代著名な桜の名所はほとんど行きましたが、格別印象深いのが吉野です。

吉野朝廷四十有余年蒼冷万古の事蹟を留めて人をして懐古の情に耽らしめる吉野は言うまでもなく、天下屈指の桜の名所であります。

例の蔵王堂の前あたりから四面皆花です。ここでは、大塔の宮の吉野落ちを思い出させる所です。遙か彼方に如意輪寺（楠正行が死を決して「かえらじと……」歌を彫つたところ）が見えますが、その間桜花爛漫、まさに天下の絶景です。

赤もうせんで花に囲まれながら、さらに口の千本、中の千本などを見下してのお酒は、また格別だつたように記憶しています。

花よりだんご

徳島 原 重 雄

酒呑みに、桜といえば「花見」がボンと浮ぶのが通り相場とも云える様である。年老いる毎に回顧の念にかられることが多くなる。何といつても若かりし日が懐しい。

私の思出の一つに、眉山での花見がある。通信省時代の大阪通信局徳島工務出張所に採用されて間もない、未だうら若き青年時代のこと。毎年四月三日を中心にして、眉山の中腹で観桜の酒宴が盛大に催されていた。当時は酒呑み天国といわれた古き良き時代であつたので、花見客の一番賑はう中腹には、警察官派出所や、藝者（技）検査まで臨時に設ける感況さであつた。また夜桜見物者のために、桜並木一帯にボンボリ提灯が飾られ、掛茶屋が所狭しと、しつらえられるのが常であつて、電話も臨時公衆が派出所の近くに設置されるのも恒例となつていた。

花見の当日になると、若者達は朝早くから設営担当に派遣され、出張所員の殆んどが座れる適当な盆地を選び、ムシロを敷きつめ、七輪、木炭、飲酒用具と四斗樽を、デカンと

中央に据えて、赤白のダンダラ幕をめぐるせば準準OK！午後には先輩諸士がどつと繰込む頃には酌婦、藝者も数名鎮座し一同を待ち受けている。そこえ所長の到来とあつて、簡単な挨拶が終れば、三味や太鼓で、呑めや唄えの大はしゃぎ、呑む程に酔う程に声も大きくなり、横たわる者、口論を始める者が出て道行く人も、余りの賑かさに、見物する程になる。口論などあつても当を得た先輩諸士の仲だちで、たちまち酒汲み交はす友となる。雨降つて地固るたとえ通りであつた、三、四時間後には、三三、五五に全員引上げて行く後は元通りに整理し、ほつとして私達が引上げる頃にはボンボリに灯が入つていた。続きは二次会としゃれ込んだが、家に帰りつくのは何時頃になつていたかは記憶にない、若き日の古き良き思出の一こまでである。

桜によせて

松山 玉 川 都 夢

四月といへばやはり桜の花。川端康成が、ノーベル賞受賞講演の「美しい日本と私」で強調した、雪・月・花・三題の中の花でもある。

俳句の世界で花といへば桜花のことであり古今集の「久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらん」の花は桜である。

花を冠して桜に通はせた言葉もまた多い。花の山、花の雨、花の雲、花簗、花吹雪、花便り、花の宿、等々美しい言葉がたくさんつくられてゐる。満開時の美しさは勿論、三分、四分咲きの頃も、また終りの頃の姿もよい。朝の清澄な大気の中、夕暮れの静かな光の

中の桜はことにすぐれている。色香、容姿の優雅さはいままでもないが、花の盛りがきまめて短く、しかもぱっと咲き、一夜の風に誘はれて散ってしまう。我々の心に何かを感じさせるものがある。

花盛りの柑塙に暮れる人の渦とどよめきにはとてもなじめない。せめて神社やお寺の境内とか、近隣の家の庭桜とか、少し足を伸して郊外バスの窓から眺める桜とかに心を寄せることによって、花のちらほら咲きから散り果るときまでの日々の風情を愛惜する晩年である。

ふるさとへ二日の旅の夕ざくら
花に酌む過ぎし月日を憶ひつつ

心の中のネガ

窪川 下 元 三 男

満々と水を湛えた渡川の流れ、遠く田野々、江川崎から炭俵を満載して下る川舟、悠然と流れる筏……河口港下田―は機帆船がひしめき、帆柱が林立してこれら物資の積出で活気に溢れていた。これは部落の境にあった学校の校庭から長年にわたって見続けた私の脳に焼き付いた故郷（現中村市実崎、旧八束村）の風景である。

部落は八十数戸、川岸に沿って防風林が続き西側のそれとの間に、整然と家並みを形成していた。村役場近くの溜池の水面に吹き寄せられる山桜の花びら……。唯一つの橋の袂にある桜の古木、氏神の天満宮は椎の大木で薄暗く、大古の羊歯で根のどの部分を切断しても八の字が見られるクサマルハチの群生地が天然記念物に指定されている。

何となく大地が春めいて来ると季節の四国遍路の群れが見られる。いわゆる遍路装束であるが、やはり若い年代は若さを発散させる工夫があり、若い娘さん達はそれなりの雰囲気を出している。この群れの通過のピーク時と桜花は毎年一致する。

部落の人達は日を定めて巡礼をお宮さんのある山の端で接待する。このお接待は村人の間ではお四国参りをしたと同じ役割があるといわれ自分達に替って歩いている遍路に感謝する意味があり、米、餅、菓、菓子など銘々が持ち寄る。御礼の詠歌、続経、鈴の音の響き、……降りしきる桜の花の中に演出されたこれらの光景は、現在部落の三分の一の戸数を移転させてきた国道三二一号線の完全舗装を疾走する車の行列を見ても、またその中に巡礼団を乗せたバスがあっても、恐らく戦時中の食糧統制の強化で消え、永久に復活することはないにしても、私の心の中のネガは修正されることはないであろう。

落花

松山 有 井 一 硯

風情とも落花一片盃に

花人のもつとも多き象の前

花に来てひめゆり塔の由来読む

花人を広場に寄せて香具師の独楽

花の下予約の席のゴザ敷かれ

開局記念の桜

板野 中 島 勇

私は桜が好きである。

あのチラホラとさながら乙女の恥じらいにも似た初らしい咲き初め、そしてやがてあたたかも我が世の春を謳歌するかの如き爛漫の真盛り、さらにまた吹雪と紛ういさぎよい散り様、それは「三日見ぬ間の桜かな」の諺のとおり、旬日を出ぬ短い命の花ながら、様々の風情で見る人を楽しませてくれる、まこと桜は日本人の心の花であると思う。

さて桜と私であるが、それは今を去る二三年前、板野報話局が開局した翌年の春であったが、板野町の商工会が観光事業のひとつとして、近辺の山や神社の境内などに桜の苗木を植えたことがあった。当時板野局に勤務していた私は、開局の記念にもと、特に請うてその苗木を三五本ばかりもらい受け、それを局舎の周囲に三、四メートル置に植え、なお余ったものを局長公舎の庭に植えたのである。何しろ局の敷地は桑畑を砂で埋め立てたものであるため、夏の日照りには地の底までもカラカラになるようなところであった。そのため植えてから二年余りというものは、朝夕の勤務時間外はもちろん、昼の休憩時間にもバケツで水を運んで盛んに灌溉を行ったものである。

じ来二〇〇有余年、局舎の増改築などのため、ほとんどの木が倒されて今では僅かに四本だけが南東の隅に残っているが、樹令も既に二〇年を越えた立派な大樹となり、年毎に見事な花を咲かせるようになってきているが、この桜

を見る度に私は開局当時のことが懐しくしのばれるのである。そしてこの桜がせめて私の生きている間は、力強く咲き続けてくれることを心ひそかに祈っておる次第である。

わが家の桜

今治 白石 フジエ

毎年美事に花を咲かせて、楽しませてくれるわが庭の大事な桜の木。それは約四十年前、今治郵便局電話分室時代のこと、構内の空地に、みんなが花や木を持ち寄って、庭作りをしたが、本庁舎建設がきまったので、その時苗木程度の桜の木をもらって帰って、植えたのが土地に合ったのか、今では一かかえもある大木となりうれしく見上げています。

あの頃の人たちは、今何処でどうして居られるやらと思びつつ、いつまでも美しく咲きつづけてほしいと願っています。

夜 桜

琴平 細川 幸子

花見と言えば「さくら」で、私の家では父が一族郎党をひき連れてお山（金刀比羅宮神苑）へ花見に行くのが、年中行事の一つであった。幼ない私はお弁当を食べると、すぐのところころまいの場所（日時計のそばで程よい芝生の斜面をそう呼んでいた）で、よその子とキヤッキヤ言いながら、ころころまいをするのが何よりも面白かった。

局で新米の時初めて夜桜に行った。おぼろ月夜の桜は私にとって、ただ寒くて暗いお山がこわかった。だがその夜桜は一つのロマンを生みだしていたらしく、後日先輩諸姉の話

に花が咲いていた。

有満局長時代二度目の夜桜に行った。元来花見は好きでないから牛に引かれて、ムシロに座っていた。そのうち宵やみが迫りきて、あたりが暗くなり目の前は桜はだんだんと白く浮き出て幻想的な舞台に早変わりした。私もいつしか舞台の一人となっていた。

ほろ酔いきげんの局長に十八番をお願いすると「すし屋の権太」を雁治郎の権太顔負けの熱演で披露お下さり私はびっくりした。全く見ものであった。

今もあの夜桜の光景が目あたりに浮び、しかもその場所が、ころころ舞のすぐそばであったということは、まことにうれしい思い出となっている。

感動の記憶

高知 沢 千代吉

小学四年生か五年生の頃だった。土陽新聞社の選んだ「土佐十景」に私たちの住む町の「双名島」が入った。その活動写真が小学校の講堂で写された。いまかいまかと待った

「双名島」が現われると、いっさいに拍手と喜びのどよめきがおこった。画面が一転、校庭の桜の木が中央にきて、だんだん大きくなったと思うと、突然ぱつと明るくなった画面いっぱいになり、桜の花が写った。白い花の一輪一輪が風にそよぎ、すきとおった花弁のひと片ひと片が日の光をあびてきらきら煌めいた。「あっきれい」と花とともにそよぎ、花弁とともにきらきら煌めいている思いの自分に気づいた。自分が花に吸いこまれた驚きが身内を走った。電撃にうたれた思いの一瞬であっ

た。いいようもない深い感動につつまれた心が消すことのできない印象となって私の心を貫いた。

自分というわかりきったものが、はたしてそうだろうかと気になるこの頃の私の心に、思いつづけて思いとげられなかった数々の思いや、言葉にしようもないままに、強い印象だけが残っている様々な感動の記憶が、私だけがたしかめることのできるかけがえのないものとして甦ってくる。それらがいままで気付かなかった自分の後姿ではなかるうかという思いが日に日に深まっている。

なぜかわからない。これからの余生は、その後姿を語るよりほかはないような気になる。それにはあの幼い心が、最初に味わった桜の花との出合いの感動、心のもっとも深いところに生きれた一瞬の陶酔の謎から、自分の言葉で語り出さねばならぬと思う。

雪洞を灯して

徳島 太田 集

眉のごと雲居に見ゆる阿波の山かけてこぐ船とまり知らずも」と万葉集によまれた徳島市の眉山は桜の名所で中腹に帯のように広がる桜は満開ともなれば白くかすんでその美しさは何とも云えない。四月ともなれば雪洞を灯して夜景の情調は格別である。私はこの夜景を幾十年眺めて来たことであろう。殊に終戦前の情景は市内に住むものにとって阿波踊とは異った憧れがあった。休日の時など当時電話局に勤めていた私は屋上から蟻のように続いて登って行く人の行列を眺めたものである。そして三昧の音と共に流れて来る嬌声。

確かにあの当時の花見人には今と異って抒情的な深さがあった。花の盛りになると私達職場のものは人間関係を温めるためにも土曜日もなれば桜のトンネルの下で花見宴を開いたものである。それがお互の堅く職場ごころをどれだけほぐしたとか、しかしこの人達が数指になった今では私にとつて追憶の花見に過ぎない。思えば淋しい限りである。で、「花見時花に眷いて住む暮し」こんな俳句を作ってみた時もある。だがこれからは真実の桜の花を自分の心の中に求めて無限の花を咲かしたい。そして今日も生き明日も生きたい。

桜こそ静かに咲いてひとりて散っていく淡々とした姿。この尊さに悟って生あるかぎり流動的に暮らして行きたいものである。これが「桜と私」との有心的なつながりであるかもしれない。

我が家のさくらんぼ

高知 岩 原文 男

戦時中のことである。我が家にさくらんぼの木が一本あった。この桜の木の花というのは、お世辞にもきれいなと云えるしろものではなかった。こんな関係もあって、裏庭の隅にあった風呂場の隣に、居候のようにしょんぼりと淋しそうに植えられてあった。

そのころの風呂といえほどの家の木切れを炊いて、お湯を沸かしていた関係で、木灰はいくらでも出来ていた。すると何処かえ捨てなければならぬ。すると面倒だから桜の木の根本へ全部捨てるといふこととなつていた。そのころはビニールなどというものが無

かった頃だったので、捨てる木灰が栄養となつて桜の木に与えられるという結果となつた。さて春も過ぎて、さくらんぼが赤く実つたとき食べてみて驚ろいた。そのおいしさは格別で、舌触りも万点でトロリツと解け込む味は最高だった。どこの果物の店にもこんな味のものはないという上等品だった。

しかし話は戦時中のことである。よいことは長く続かなかつた。空襲は盛んになる一方で、庭のどこかへ壕を造らねばならぬこととなり、適当な場所も無かつた関係で、さくらんぼどころかこの桜の木を掘つて其の跡へ壕を掘つた次第であつた。

空襲で家も焼けずであつた後から思うと、その桜の木に未練は出たが、焼け出された人たちのことを思うと、さくらんぼの実る桜の木なんか問題外のことだと思ふ。今なら品評会へ出しても知事賞請合いの味であつた。今になつてもあんな味のさくらんぼに出会わないのである。

花 簞

松山 横山 蔵峰

花篝囲む一団ぞよめかず

花人の無礼許して地藏尊

夜灯花の梢に届かざる

師を迎ふ庭の桜に灯して

故郷の花巡り得ず旅に住み

電電公社の人事異動

一月からの定期人事異動によるご栄転の主なもの、次のとおりです。

赤岡	安芸	宿毛	土佐清水	日和佐	佐川	鴨島	神山	石井	牟岐	阿波勝浦	徳島	内海	長尾	高瀬	多津	琴平	善通寺	伊予中山	中島	伊予三島	西条	宇和島	八幡浜	久万	伊予	松山	徳島	四国	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	予電報電話局長	無線通信部長	電気通信部長	電気通信局長
市川	宇野	住田	森岡	武田	三好	溝田	池田	大藤	栗田	六車	勇士	小島	湊五郎	湯安	川口	伊原	加藤	日野	神山	中山	山本	雲財	高津	花山	森本	柏野	賀川	原田	
民利	利久	久利	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	利久	阿久利

俳句

浅春賦

高松 植田 艸園子

初釜に参りし人の長電話
霜枯れし狭庭にひとり沈丁花
ことしまた老母病み臥しぬ沈丁花
霜夜ただ亡父が修忌を思うらし
世に老いて亡父五十年忌春浅し

短歌

隠岐に遊ぶ

松山 藤田 基孝

チカラシバの黒き穂敷きて休みたり西日に光る
隠岐の海見て
家ごとに目刺を軒に干す露地をめぐりて今宵の宿をたずねる
波荒き国賀の海の洞窟に舳先回してくぐりゆきたり

計報

次の方が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏名	死亡年月	行年	所属の会
岡林繁晴	49・12・24	七四	高知
郡清	49・10・23	七五	徳島
北谷喜市	50・1・9	七三	香川
城豊	50・2・5	七一	〃
藤原彰	50・2・22	七八	愛媛

戸籍抄本をお出ください
年金受給資格を確認するための書類として、戸籍抄本又は住民票の写を、四国電気通信局厚生課へお出してください。提出期限は四月二〇日です。余白に年金証書の記号番号を忘れないように。提出しないと、六月期の年金支払ができません。

編集部から

会員消息 募集

風のたよりということもあるが、活字になつた知人のたよりは、また一入なつかしいものです。掲載の便宜上アンケートの形を次のようにしますが、型にとられず自由に、それぞれの持ち味を出してお書きください。但しなるべく多くの消息を載せたいので、字数は三〇〇字程度にお願いします。

- 一、氏名、年令、退職年次、勤め先等。
- 二、健康状態、家族の状況等。
- 三、日常生活、趣味、その活動等。
- 四、退職者としての希望、意見等。

趣味の作品 募集

みなさんの趣味の活動の中に生れた傑作をお寄せ下さい。

- 俳句、川柳 (五句以内)
- 短歌 (五首以内)
- 随筆、随想 (六〇〇字程度)

次号発行予定 七月一日
原稿締切 五月一日

編集後記

編集を終った三月四日夜、国の予算案が衆議院を通過しました。これで五〇年度の年金増額は、大巾アップが期待できることになりました。物価の騰勢もやや、沈静化してきたので、老後生活の不安も、いくらか薄らいできたと見てよいでしょうか。

本号の特集「桜と私」の応募がたくさんありました。やがて爛漫の桜の花と、妍を競うことになるでしょう。

七月発行の第一号には、会員消息を多く載せたいと企画しています。ご協力をお願いします。

連合会事務局の鈴木さんが、病気のため、四月から玉川邁さんに、代ることになりました。よろしく願います。

電友会四国連合会報 第一〇号

昭和五〇年四月一日発行

編集発行 電友会四国連合会事務局

松山市一番町四丁目

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三一―九八八四

印刷 四国電話印刷株式会社